

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 豊かな将来を自ら切り拓く子どもの育成
— 「つながるよろこび」「まなぶよろこび」「やくだつよろこび」を実感できる、キャリア教育を基盤とした教育活動をすすめる—
- 安全安心で社会に開かれた魅力ある学校

2 中期的目標

1. 小中高一貫した教育活動の充実

- (1) 現行の教育課程における課題の検証と改善案の作成（本校のめざす子ども像、「つきたい力」を指針として）
※カリキュラム・マネジメント委員会においてく（R4：検証・改善案作成済） R5：実施 R6：調整・定着を図る>
- (2) キャリア教育の充実
ア 学部間交流授業の定着を図り、子どもの憧れや自己肯定感を育む。
イ 子どもの主体性を育む「なんば祭」を実施する。<（R3：作品展との同時開催を検討済）（R4：授業との関連について検証済） R5：定着を図る>
ウ 高等部職業自立コースの充実により、将来就労に必要な資質を身に付けることをめざす。
- (3) 授業改善の仕組み構築
ア チームティーチングの改善により、授業力の向上を図る。
イ ICT 機器及び1人1台タブレット端末の活用による授業の充実をめざす。
- (4) 専門性の向上
ア 子どものアセスメント結果を個別の指導計画の作成に活用するシステムを構築し、子どもの発達を支援する。
<R5：アセスメント結果を個別の指導計画の作成に活用するシステムを検討・作成 R6：活用 R7：調整・定着を図る>
イ 教職員のニーズに基づいた研修会を調査のうえ実施し、実践に活かす。

2. 安全安心で、魅力ある教育環境の整備

- (1) 防災教育の充実
・ 大規模災害に備えた、柔軟で実効的な避難訓練や防災教育を実施する。
- (2) 情報モラル教育の充実
・ 携帯電話やインターネット活用のリスクに関する学習をすすめる。
- (3) 人権教育の充実
ア 地域と連携した同和教育研修会を実施する。
イ 子どもの人権尊重に関する研修会を実施する。
- (4) 豊かな情操を育む教育活動の充実
ア 自立活動等におけるシアタールームの活用をすすめる。
イ 校内における子どもの作品の常設展示を充実させる。

3. 保護者・地域・関係諸機関との連携

- (1) 教職員と保護者が協働できるPTA活動の充実を図る。
(2) 近隣諸学校のニーズに応える地域支援を展開する。
(3) 外部専門家や福祉等関係諸機関との有効で迅速な連携を行う。

4. 「いきいきと働ける」教職員のチーム力向上

- (1) 「45分会議」を徹底する。
(2) デジタル教材の共有、活用をすすめる。
(3) 一斉退勤日を実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 小中高一貫した教育活動の充実	(1) 現行の教育課程における課題の検証と改善案の作成	(1) 昨年度作成した教育課程の改善案を実施する。3学期、小中高の円滑な連携の観点で更なる改善点を検討し、R6につなぐ。	(1) 教職員用学校教育自己診断アンケート「教育課程の編成にあたって、教育目標・めざす子ども像の実現に向けたものとなるよう検討、改善をすすめている。」項目の肯定的回答率 <u>88%以上</u> を維持する。[88.4%]	
	(2) キャリア教育の充実	(2) ア 学部間交流授業の定着を図り、子どもの憧れや自己肯定感を育む。 イ R4の「なんば祭」の実施方法等について検証し、子どもの主体性を育む行事として定着させる。 ウ 高等部職業自立コースの充実により、将来就労に必要な資質を身に付けることをめざす。	(2) ア R4 試行的に実施した学部間交流授業13回につきカリキュラム・マネジメント委員会及び教科会で検証し、8個以上をシラバスに位置付け具体的に記載、継続実施する。 イ 「なんば祭」教職員向け事後アンケートにおいて「キャリア教育の観点で子どもの成長を実感することができたか」の肯定的回答率 <u>75%以上</u> をめざす。[新規] ウ 当該生徒に対し年度末アンケートを実施し、コースの授業に対する満足度 <u>85%以上</u> をめざす。[60%]	
	(3) 授業改善の仕組み構築	(3) ア チームティーチングの改善により、授業力の向上を図る。「授業改善シート」を活用し、めあて・T2への依頼内容・感想と改善点を共有する。 イ ICT 機器及び1人1台タブレット端末の活用による授業の充実をめざす。	(3) ア 教職員用学校教育自己診断アンケート「教員の間で授業方法等について、検討する機会を持っている。」の項目の肯定的回答率を <u>85%以上</u> にする。[82.1%] イ 教職員用学校教育自己診断アンケート「児童生徒用タブレットを授業等で活用している。」の設問で「よくあてはまる」の回答率 <u>45%以上</u> をめざす。[40.0%]	
	(4) 専門性の向上	(4) ア 子どものアセスメント結果と個別の指導計画の作成との関連性を更に深め、支援の充実を図る。 イ 教職員のニーズに基づいた研修会を企画、実施する。	(4) ア 支援研究部により研修を行い、教職員用学校教育自己診断アンケート「アセスメント結果は、個別の指導計画に活かされている。」の項目について「よくあてはまる」の回答率を 35%以上にする。[30.5%] イ 年度初め支援研究部によりニーズを調査し、研修を年間3回以上企画・実施する。教職員用学校教育自己診断アンケート「ニーズに基づいた研修を計画し、一人ひとりの専門性を高めている。」の項目において「よくあてはまる」の回答率を 35%以上にする。[32.6%]	
2 安全安心で、魅力ある教育環境の整備	(1) 防災教育の充実	(1) 大規模災害に備えた、柔軟で実効的な避難訓練や防災教育を実施する。教職員の研修含め、その様子を「防災だより」やホームページ等で家庭に周知する。	(1) 保護者用学校教育自己診断アンケート「学校は、災害に備え避難訓練や防災教育の充実を図っている。」(R4「災害に備え、防災計画の見直しと充実を図っている。」の文言を変更)の肯定的回答 <u>70%以上</u> をめざす。[64.3%]	
	(2) 情報モラル教育の充実	(2) 携帯電話やインターネット活用のリスク(キャッシュレス活用やSNSにおけるトラブル等)に関する学習を体系的にすすめる。	(2) 中学部・高等部の授業において、実態に応じ必要とされるグループのシラバスに位置付け(R4に作成したシラバスを年度初めに改訂)、年度末に各学年の実施状況を職員連絡会において確認、共有する。	
	(3) 人権教育の充実	(3) ア 地域と連携した同和教育研修会を実施する。 イ 子どもの人権尊重に関する研修会を実施する。	(3) ア 地域と連携した同和教育研修会を年間3回以上実施する。[2回] イ 管理職の企画により2回以上実施する。[1回] ※ア、イ共、事後アンケートを共有する。	

	(4) 豊かな情操を育む教育活動の充実	(4) ア 自立活動等におけるシアタールームの活用をすすめる。機材や設備の整備をすすめるとともに、活用方法について文化情報部により紹介する。 イ 校内における子どもの作品の常設展示を充実させ、児童生徒の豊かな情操を育む教育活動をすすめる。	(4) ア 授業等で取り組んだ実践についてホームページの「学校日誌」で学期に2回以上紹介する。 イ ピクチャーレールの増設等、環境整備をすすめる。教職員用学校教育自己診断アンケート「教職員は、児童生徒の豊かな情操を育む教育活動を実施している。」の項目につき「よくあてはまる」の回答率を45%以上にする。〔41.1%〕	
3 保護者・地域・関係諸機関との連携	(1) 教職員と保護者が協働できるPTA活動の充実 (2) 近隣諸学校のニーズに応える地域支援の展開 (3) 外部専門家や福祉等関係諸機関との有効で迅速な連携	(1) 夏まつりや防災関係（災害時の子どもの引き継ぎ訓練や研修等）の行事を、教職員の担当者と保護者が共に企画する。 (2) リーディング・スタッフにより近隣諸学校の支援に関するニーズを把握し、近隣校教職員への障がい理解に取り組む。 (3) 学年会において支援研究部員及び生活指導部員が主となりニーズを把握し、医療・福祉・外部専門家等につなぐ必要性のある児童生徒について「支援シート」を作成する。状況に応じ主治医相談やケース会議、外部専門家活用をすすめる。	(1) 保護者用学校教育自己診断アンケート「学校はPTA活動に積極的に取り組んでいる。」の項目75%以上をめざす。〔72.5%〕 (2) 近隣校児童生徒への出前授業のべ6回以上、近隣校教職員への障がい理解研修3回以上実施する。〔出前授業のべ6回、障がい理解研修2回〕 (3) 教職員用学校教育自己診断アンケート「教職員は、保護者のニーズに応じて迅速に外部専門家及び関係諸機関と連携している。」の設問で「よくあてはまる」の回答率60%以上をめざす。〔53.7%〕	
4 「いきいきと働ける」教職員のチーム力向上	(1) 「45分会議」の徹底 (2) デジタル教材の共有、活用 (3) 一斉退勤日を実施する。	(1) 学期初め、学年会の在り方について学部リーダー会議において意見交換を行う。協議の在り方、グループウェア活用等を検討し効率化を図る。適正な回数（現在月1回）についても検討する。 (2) R4に支援研究部でタブレットに集約した教材を2学期開始目途にグループウェアへ移行する。互換性のないものについては修正をすすめる。教材の共有により、効率化をすすめる。 (3) 毎週水曜日を一斉退勤日とし、管理職により周知、徹底を行う。	(1) R4に引き続き会議記録に終了時間を記載し意識を高め、年度末に全教職員でデータを共有する。〔R4：学年会以外の会議はほぼ45分程度で実施できている。〕 (2) 教材集約数を100以上にする〔90〕。2学期開始時に「支援研究部だより」により教材の周知を行い共有することにより、業務の効率化を図る。 (3) ストレスチェックの身体的負担度偏差値40、総合健康リスク105以下をめざす。〔身体的負担度偏差値35、総合健康リスク108〕	